

2012(平成24)年

10月1日

第137号

毎月発行

毎月第4月曜日は休館日です

西東京市

# 公民館だより

編集

公民館だより編集室

発行

西東京市公民館

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



待ち合わせは公民館で「あそびのつどい」開館5年目

芝久保公民館のロビーは、誰もが気軽に立ち寄ることができ、声を掛け合える場となるよう考えられています。「あそびのつどい」から始まり「ちいさな展示会」へと受け継がれているこの事業は、地域の有名人、一芸に長ける方を講師に招いて、展示や講習会などを開催し交流の場を作り上げています。

◆芝久保公民館誕生  
昭和57年4月。地域の大きな期待を受け田無公民館に次ぎ、旧田無市の二番目の公民館として誕生しました。  
建設前には、市民を中心とした協議会が結成され、陶芸用の備品を完備した創作室の設置など地域住民の声が取り入れられました。  
今回は、開館から30年間に起きた出会いから、芝久保公民館の魅力を探ってみます。

## ◆地域デビューは公民館

公民館主催講座をきっかけに、地域活動に参加するようになった市民もたくさん生まれました。

## 芝久保公民館 のあゆみ 出合いを重ねて30年

持たないまま定年退職した野間さんもそのひとりです。陶芸講座から陶芸サークルを結成し、後に芝久保公民館利用者連絡会との出会いで、公民館の役割や社会教育に関心を持つようになりました。  
「公民館に入りしついでに」

## ◆地域の拠点として

開館当時からサークル活動を展開し、公民館運営審議会委員も務めた齋藤三枝子さんは思い出を語ります。

「当時、中高生たちが夜公民館に集まっていたことについて、公民館運営審議会で議論したこともあります。会議では、公共施設に集まっているのはある意味健全なことだと捉え、子どもたちを排除するのではなく、逆にどう生かしていくのが、地域の拠点である公民館の役割ではないか、との話し合いをしましたりました」。

そのような流れから、主催講座「地域で創る教育ネットワーク講座」に繋がりました。

地元のPTA、青少年育成会、民生委員等の人々が公民館に集まり、様々な組織を超えての情報交換や交流をし、また専門家を招いての学び合いを取り入れ、地域の絆を強めています。

## ◆芝久保公民館のこれから

芝久保公民館では、住民主体で地域の生活課題や地域課題を見据えた学習機会を提供し、人と人とのより良い関係を作るために必要な人権講座や「平和を考える講座」に取り組んでいます。

住宅地である地域性を生かした公民館として顔の見える関係づくり、地域に根ざした活動をこれからも続けていきます。

## 芝久保公民館を利用する市民から

私の福祉活動の拠点は公民館です。公民館は地域に住むすべての人たちが協働して生き生きと暮らせるまちづくりを目指すところです。立派な理念、目的、施策があっても行動を起こすのは人です。公民館が拠点となり、職員と市民が一つの共通点を認めて手を結び、大きな力を発揮できればよいと痛感しています。

豊かな老いじたくを考える会 北澤実夫



開館30年目「ちいさな展示会」で新たな出会いが始まる

## 散策・探訪・発掘

わが街をもっと知りたくて

## 西東京市プレーパーク★キャラバン

## 遊びながら社会を学ぶ

谷戸町にある「谷戸せせらぎ公園」で、お母さん達が子ども達のために、手作りの遊び場を開催している。聞いて、7月の暑い日に訪ねました。

その日の遊びは、ビニールプールに手作りのお魚を入れた「お魚つりゲーム」と、食器用洗剤で作った、女の子たちに大人気の「しゃぼん玉コーナー」。子ども達は夢中で遊び、ついには水をかけあう「水かけバトル」も勃発。子どもから大人まで、びしょびしょになりました。も楽しく遊んでいました。

この遊び場は「西東京プレーパーク★キャラバン」という事業から生まれました。この事業は、子育てサークル「マンマミーア・プラス」が、西東京市に提案したもので、NPO等企画提案事業として2011年4月24日からスタートしました。

設備や遊具に頼らずに、自然の中で子どもたちが自由に遊びを創り出していきける、冒険広場を設けたいというお母さんたちの願いから生まれた同事業は、月に一度市内各所の公園を拠点に実施されています。

ここでは、泥・砂遊び、水遊び、虫探し、群れ遊びなどの季節折々の自然を体で感じることで豊かな五感を養う遊びはもちろんのこと、地元のさまざまな団体と協力し合い、木工作りや伝統遊びなども行っています。こういった遊びの場は一昔前まではどこにもありませんでした。

近年は、自然の中で、小さな子ども達から大きな子ども達まで一緒に遊べる場所が少なくなっています。しかし、手をこまねいているわけにはいきません。

彼女たちの活動は、自然の中で遊ぶことで得られる発見と感動を、現代の子にプレゼンするだけでなく、異年齢集団の中で遊ぶことで、子どもたちが、人間関係を学び社会性を身につける場ともなっているのです。

同事業は基本的に、毎月第4日曜日に実施しています。10月は、西原自然公園で開催します。詳しくは公式ブログをご覧ください。

公式ブログ <http://ameblo.jp/playpark-caravan-west/>

## 「プレーパーク」とは

「プレーパーク」は、今から70年ほど前にデンマークで生まれました。日本では世田谷区の「羽根木プレーパーク」が広く知られるきっかけとなりました。

